

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2020年11月分)

2020年12月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[BH国内で新型コロナ感染再拡大が継続\(1～30日\)](#)

●[統一地方選挙の実施\(15日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[サラエボ・カントン議会、SDA主導政権に対する不信任決議案を可決\(30日\)](#)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[SNSD、野党出身パニャ・ルカ市新市長との対決姿勢を鮮明化\(24日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[インツコ上級代表、第58回国連安保理報告を実施\(5日\)](#)

●[BHおよび各国の要人、デイトン和平合意25周年に関する共同声明を発出\(21日\)](#)

(2) 二国間関係

●[BH・パキスタン間で不法滞在国民の本国送還に関する協定締結\(4日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[坂本大使のジャフェロビッチ大統領評議会議長およびコムシッチ同クロアチア系メンバーへの離任表敬\(18日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[公営アルミニウム精錬企業アルミニ社、約1年半ぶりに操業を再開\(3日\)](#)

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●[IMF、対BH追加資金貸付を来年2月までに実施の見通し\(30日\)](#)

(3) 民間セクター

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●BH国内で新型コロナ感染再拡大が継続(1～30日)

10月半ば以降、BH国内では新型コロナウイルス感染再拡大の傾向が続いており、11月も一日の新規感染者数が平均1,000人超で推移。感染再拡大を受け、10日、BH連邦政府は夜間の外出を一部規制する措置を再導入。また、RS政府も予防措置の厳格化を検討している。

●統一地方選挙の実施(15日)

統一地方選挙(各自治体の首長選および議会選)が全国約140の自治体(モスタル市のみ12月20日に実施予定)で行われ、BH連邦のサラエボ市内各区長選では、野党「4党連合」の統一候補が複数選挙区で現職のSDA(ボシュニャク系与党第一党)候補に勝利。またRSの中心都市バニャ・ルカ市(RS)の市長選挙では、RS野党の統一候補がSNSD(セルビア系与党第一党)現職候補に勝利するなど、主要都市で野党が躍進。最終結果は12月15日までに確定する見通し。

●ドディックBH大統領評議会議長の就任(20日)

ドディックBH大統領評議会議長(元首、セルビア系)が、ジャフェロビッチ前議長(ボシュニャク系)にかわり就任。同議長職は、BH憲法に基づき3名による8か月ごとの交代制となっており、ドディック議長の任期は2021年7月19日までとなる。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●サラエボ市郊外で移民・難民による住民殺傷事件が発生(17、26日)

17日夜、サラエボ市中心部から西方約10キロに位置するイリジャ区内のカフェ店内において、3人組の移民・難民がBH人の同区民3名を刃物で殺傷する事件が発生。26日、隣国のセルビア警察は、ベオグラード市内のホステルにいたモロッコ出身の移民の男性を同殺人容疑で逮捕した。容疑者は近日中にもセルビアからBHに移送される予定。

●サラエボ・カントン議会、SDA政権に対する不信任決議案を可決(30日)

サラエボ・カントン議会は、野党「4党連合」(人民と正義(NiP)、我々の党(NS)、社会民主党(SDP)、BH独立系リスト(NBL))が提出したSDA主導の同カントン政権に対する不信任案を賛成多数で可決。本件をめぐっては、10月にSDAを離党したチャンパラ同会議議員が「4党連合」とともに不信任案に賛同したことでSDAは議会少数派に転落。「4党連合」は近く首相候補を指名し、2108年国政選挙以来2度目となる同カントン政権を発足させる見通し。

イ. スルプスカ共和国(RS)

●SNSD、野党出身のバニャ・ルカ市新市長との対決姿勢を鮮明化(24日)

ドディックSNSD党首は、15日に実施された地方選挙の結果を受け、議会多数派を獲得したバニャ・ルカ市議会の運営をめぐりRS連立与党の党首等と会談。この中でドディック党首は、同市市長選において民主進歩党(PDP)などのRS野党の統一候補としてSNSDの現職候補に勝利(暫定結果)したスタニブコビッチ新市長との対決姿勢を鮮明化、同市長

の市政運営には協力しないとする方針を表明した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●インツコ上級代表、第58回国連安保理報告を実施(5日)

インツコ上級代表は、第58回国連安保理報告を行い、この中で、デイトン和平合意25周年を迎える本年も、一部の政治勢力がBH国家を否定する動きが続いていることに懸念を表明。これに対してBH国内では、セルビア系およびクロアチア系が、同報告は特定民族への批判に偏っているとして批判。また、露国連常駐代表も同報告を批判するとともに、国連非公式会合を開催し、主要3民族政党の各党首から、各民族の見解を聴取したいとする意向を述べた。

●PIC・SB、公平な統一地方選挙の実施を求める共同声明を発出(10日)

PIC・SBは、15日に予定されている統一地方選挙の投票日を前に、自由かつ公平な選挙実施を求める旨の共同声明を全メンバー国の一致により発出した。

●BHおよび各国の要人、デイトン合意25周年に関する共同声明を発出(21日)

デイトン和平合意25周年に際して、BH大統領評議会、インツコ上級代表、ストルテンベルクNATO事務総長、ボレルEU上級代表など、主要国および主要国際機関の要人が声明を発表。また、PIC・SBも、デイトン合意25周年に際して全メンバー国一致のもと、共同声明を発出した。

●ボレルEU上級代表のBH訪問(20～21日)

デイトン和平合意25周年にあわせ、ボレルEU上級代表がBHを訪問し、BH大統領評議会3メンバーとの間でBHのEU加盟プロセスおよび新型コロナ対応などをめぐり会談を実施。このほか、ボレル上級代表はBH議会上下両院議長団、トゥルコビッチBH副首相兼外相およびベバンダBH財相、BH連邦およびスルプスカ共和国の主要野党党首とそれぞれ会談を行った。

●デイトン合意25周年記念国連アリア・フォーミュラ会合の開催(24日)

露国連常駐代表の主催により、BH情勢に関する当国主要政党党首の意見聴取を目的に、デイトン和平合意25周年記念国連アリア・フォーミュラ会合(非公式会合)が開催され、インツコ上級代表、ドディックSNSD党首、チョービッチHDZ(クロアチア系与党)党首が参加。ドディック党首はOHR批判とともに、RSのセルビアとの統合方針を強く示唆する発言。一方で、同じく招待を受けたイゼトベゴビッチSDA党首は、BHを対外的に代表するのは大統領評議会のみであると反発し、同要請を拒否した。

(2) 二国間関係

●BH・パキスタン間で不法滞在国民の本国送還に関する協定締結(4日)

ツィコティッチBH治安相は、訪問先のパキスタンにおいてシャー同国内相と会談し、BH国内で深刻化する不法移民・難民問題(注:当国内の不法移民には多数のパキスタン出身者が含まれるとみられている)の解決に向け、不法移民・難民の本国強制送還に関する二

国間合意を締結。同合意の発効後、両国政府は、協定相手の国民が自国に不法滞在していた場合に、同人を出身国に強制送還することが可能になる。

●BH・セルビア外相会談(5日)

トウルコビッチBH副首相兼外相は、南東欧協力プロセス(SEECP)会合に出席のため訪問したトルコで、セラコビッチ・セルビア外相と会談を実施。両外相は、両国の新型コロナ対応のほか、世界各国の市場における両国の競争力向上を目指し、BH・セルビア二国間および西バルカン地域全体で経済協力を強化していく方針につき話し合った。

(3)日・BH関係

●坂本(前)大使のジャフェロビッチ大統領評議会議長およびコムシッチ同クロアチア系メンバーへの離任表敬(18日)

11月18日、坂本(前)駐BH日本大使はジャフェロビッチ大統領評議会議長(元首、ボシュニャク系)およびコムシッチ同クロアチア系メンバーに離任表敬を実施。会談では日・BH関係などにつき話し合い、両メンバーからは、両国の関係強化に対する坂本(前)大使の貢献と、これまでの日本の対BH支援および経済協力への謝意が述べられた。



(写真:坂本大使とジャフェロビッチ議長)

3. 経済

(1)経済政策・公共事業

●公営アルミニウム精錬企業アルミニ社、約1年半ぶりに操業を再開(3日)

昨年7月に経営危機に陥り、以来操業を停止していたモスタル市の公営アルミニウム精錬企業アルミニ社が、同市にある同社工場の操業を再開。操業再開に先がけ、アルミニ社は本年4月、イスラエルに拠点を置くM. T. アブラハム・グループとの間で同工場のリース契約を結んでいた。

(2)経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●ドイツ政府、人工呼吸器12台をBHに供与(2日)

ドイツは、新型コロナウイルス問題をめぐる対BH支援の一環として、独製人工呼吸器12台をサラエボ市、モスタル市、およびバニャ・ルカ市などのBH国内各地の病院に供与する方針を発表した。

●EUとドイツ、BHの観光業活性化に向け支援を実施(5日)

EUとドイツは、EU4Business(EU加盟希望国に対する企業支援などを行うEUの枠組)を通じ、BH国内におけるアドベンチャー・ツーリズムの活性化に向け、国内10の自治体との間で総額34万KM(約17万4,000ユーロ)規模のプロジェクト実施に向けた覚書を締結した。

●IMF、対BH追加資金貸付を来年2月までに実施の見通し(30日)

ジュウェル当地IMF(国際通貨基金)事務所長は、新型コロナ問題対応としてBH政府がIMF側に要請中の7億5,000万ユーロ規模の追加資金貸付につき、来年2月ごろの貸付実施に向け、現在BH政府と貸付条件などをめぐり交渉中である旨発言。本件をめぐっては、BH政府が本年9月にIMFに追加の貸付を要請、ジュウェル事務所長は貸付の条件として、保健、財政制度の改革などをBH政府に求める方針としている。

(3)民間セクター

●墺企業、来年にも新たな対BH直接投資の方針(13日)

墺のPewag Groupは、来年にも200万KM(約102万ユーロ)を投じBH北部のスルバツ市(RS)に繊維製品工場を開設の方針。同工場が開設されれば、新たに80人程の雇用が生まれるとしている。